

第2学年 英語科学習指導案

令和4年9月30日(金)

第5校時 13時20分～14時10分

2年1組 20名

指導者 渡邊 みなみ

1. 単元名

ウルルとアナング族のつながりを理解し、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について考えよう

(NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 Lesson 4 Uluru)

2. 単元について

本単元では、生徒はオーストラリアについての情報や先住民であるアナング族と、彼らの聖地と考えられているウルル(エアーズ・ロック)について学習する。ウルルは世界遺産に登録され、多くの観光客が訪れる場所であるが、観光客の中にはアナング族の人々が大切にしている石を持って帰ったり、聖地の写真を撮ったりするなどの禁止行為をおこなう人もいる。先住民の方々の気持ちを考えながら読むことで、異文化理解と異文化交流について深く考えることができるため、読むことの題材として適している。

文法事項としては第4文型<動詞(giveなど)+A+B>や第5文型<動詞(call, makeなど)+A+B>を学習する。友だちに贈るものについて話したり、人やものなどの呼び名や愛称について伝えたりすることで、自分の考えや気持ちを表現することができる言語材料である。本単元では説明文や意見文を読み取ったり、その内容に対する自分の考えを述べたりする活動を設定し、書き手が最も伝えたいことについて要点を捉える力を身につけさせたいと考えている。

本学級の生徒は、学習に対して真面目に取り組む生徒が多い。ペアやグループ活動にも積極的で、ともに学び合う雰囲気がある。事前に行った英語の授業に関するアンケート調査では、「好きな英語活動は何ですか」という問いに対して「友だちとのペア・グループ学習」と答えた生徒が70%おり、協働して行う活動をおおむね好んでいることがわかった。一方で4月に実施した大分県学力定着状況調査では、リーディングにおいて全国の平均正答率より10%以上下回っている項目が多数あり、長文や対話文の読解が課題とみられる。対話の流れや表などから、登場人物の適切な発言を選択する問題の正答率が低く、長文や対話文の概要や要点を捉える力の育成が必要であると考えられる。

また、昨年度本校で実施した英検IBAの結果においても、4技能別の各平均得点率はリーディングが最も低い結果であった。(リーディング41.1%、リスニング43.3%、ライティング55.5%、スピーキング54.9%)リーディングの中でも語彙・熟語・文法の得点率が46.7%、読解の得点率が35.6%となっており、ここからも、長文や対話文の読解力が課題であることがわかる。

指導にあたっては、上に述べた生徒の課題に対応するため、以下の2点をポイントに挙げる。

- ① 社会的な話題に対して意欲的に読む活動へとつながるよう、学習の見通しをもたせつつ、自分事として教材と向き合うことができるようにする。具体的には、単元の最初にオーストラリアの季節など日本と違う点を本文の内容から読み取っていく。そしてウルルとアナング族のつながりについて考え、歴史的背景にふれながら聖地とされる観光地でのふるまい方についてペアと意見交流しながら学んでいく。
- ② 事前に問いを与え、目的をもって読んだり聞いたりさせることで、本文のキーワードやキーセンテンスに注目させ、要点を捉えさせたい。また、聖地とされる場所についての興味・関心を高め、さらに単元のゴールを意識させることによって、観光するときに気をつけることについて深く考えさせたい。そのために、単元の後半では推論発問や評価発問を積極的に行い、教科書本文を引用しながら、読み取ったことをもとに自分の考えを話したり書いたりして表現する言語活動を行っていく。

3. 単元の目標

オーストラリアについての英文を読み、表にまとめたり、英文にタイトルをつけたりしながら概要・要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを伝え合うことができるようにする。

4. 関連する学習指導要領における領域別目標

読むこと	ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
------	--

5. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p><知識> <動詞 (give など) +A+B>、<動詞 (call, make など) +A+B>の特徴やきまりを理解している。</p> <p><技能> <動詞 (give など) +A+B>、<動詞 (call, make など) +A+B>などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身につけている。</p>	<p>自分の意見や考えを伝えるために、ウルルとアナング族のつながりや、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について知り、英文の概要や要点を捉えている。</p>	<p>自分の意見や考えを伝えるために、ウルルとアナング族のつながりや、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について知り、英文の概要や要点を捉えようとしている。</p>

6. 単元の指導計画と評価計画 (7時間扱い) ※◎…記録に残す評価

時間	学習活動	知	思	主	評価規準 【評価方法】
1	<p>① オーストラリアについて、ペアで説明し合う。その後、<動詞 (give など) +A+B>の特徴やきまりを確認する。</p> <p>② 自己目標を設定する。</p>	○			<p><知識> <動詞 (give など) +A+B>の特徴やきまりについて理解している。【記述分析】【行動観察】</p>
2	<p>① オーストラリアと日本の違いに関する教科書の内容理解を通して、<動詞 (give など) +A+B>の意味や用法を知る。</p> <p>② 教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝え合う。</p>	○	○		<p><知識> <動詞 (give など) +A+B>の意味や用法を理解している。【記述分析】</p> <p><思考・判断・表現> 教科書本文から必要な情報を理解し、ペアで伝え合っている。【記述分析】【行動観察】</p>
3	<p>① オーストラリアの観光地について、ペアで説明し合う。その後、<動詞 (call, make など) +A+B>の特徴やきまりを確認する。</p>	○			<p><知識> <動詞 (call, make など) +A+B>を理解している。【記述分析】</p>
4 本 時	<p>①ウルルの呼び名に関する教科書の内容理解を通して、<動詞 (call, make など) +A+B>の意味や用法を知る。</p> <p>②教科書本文を読んで、書き手が最も伝えたいことを捉える。</p> <p>③本文内容とその内容に対する自分の考えなどをペアで伝え合う。</p>	○	○		<p><知識> <動詞 (call, make など) +A+B>の特徴やきまりを理解している。【記述分析】</p> <p><技能> <動詞 (give など) +A+B><動詞 (call, make など) +A+B>などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身につけてい</p>

				<p>る。【記述分析】</p> <p><思考・判断・表現></p> <p>ウルルとアナング族のつながりについて知り、自分の意見を伝えるために、英文の要点を捉えている。【記述分析】</p>	
5	<p>①Readの全体を読み、ウルルとアナング族のつながりや、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について、本文の内容を表にまとめて概要を捉える。</p> <p>②本文で使われている未習の語の意味や、<動詞(giveなど)+A+B><動詞(call, makeなど)+A+B>の構造と意味を理解する。</p>	○	○	<p><知識></p> <p><動詞(call, makeなど)+A+B>の特徴やきまりを理解している。【記述分析】</p> <p><技能></p> <p><動詞(giveなど)+A+B><動詞(call, makeなど)+A+B>などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身につけている。【記述分析】</p> <p><思考・判断・表現></p> <p>ウルルとアナング族のつながりや、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について、概要を捉えている。【記述分析】【行動観察】</p>	
6	<p>①ウルルとアナング族のつながりや、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について、要点を捉えるために、書き手が最も伝えたい部分に線を引かせる。</p> <p>②観光客が訪れる際に気をつけるべき点について、自分の考えを、本文に書かれていることを引用しながら、複数の人と伝え合う。</p>		○	<p><思考・判断・表現></p> <p>観光客が訪れる際に気をつけるべき点について、印象に残った箇所を引用し、自分の考えをペアで伝え合っている。【記述分析】【行動観察】</p>	
7	<p>①教科書本文のテーマに沿ってかかれた意見文を読み、概要や要点を捉える。</p> <p>②書き手が一番伝えたいことに対する自分の考えなどを、本文の内容を引用しながら複数の人と伝え合う。</p> <p>③自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>	◎	◎	◎	<p><知識></p> <p><動詞(call, makeなど)+A+B>の特徴やきまりを理解している。【記述分析】</p> <p><技能></p> <p><動詞(giveなど)+A+B>、<動詞(call, makeなど)+A+B>などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身につけている。【記述分析】</p> <p><思考・判断・表現></p> <p>《ウルルとアナング族のつながりや、観光客が訪れる際に気をつけるべき点について知り、自分の意見を伝えるために、英文の要点を》捉えている。【記述分析】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <p>《同上》捉えようとしている。【記述分析】【行動観察】</p>
8	単元テスト	◎	◎	◎	

7. 本時案 (4/7)

(1) 題目 Lesson 4 GET Part 2 Uluru ウルルの名称

(2) 本時のねらい

ウルルに2つの呼び名がある背景やアナング族の気持ちについて、ウルルの呼び名に関する説明文を読み取ったり、その内容に対する自分の考えを述べたりする活動を通して、英文の要点をとらえることができるようにする。

(3) 展開

学習活動	時	指 導 上 の 留 意 点	備 考 (評価)
1. Warming Up	2	○ウォームアップをする。 ・今日の日付、曜日、天気、本時の流れを確認する。	
2. Review オーストラリアのことについて知る	3	○オーストラリアのことについて、QA の形式で教師から生徒に問いかけ、答えを確認する。	
めあて：「ウルル」と「エアーズロック」という名称について考えよう			
3. Reading ウルルの呼び名について本文の内容理解を行う	30	○ウルルの呼び名について本文の内容理解に取り組ませる。 ・ウルルの写真と「エアーズロック」と書かれた旅行の広告を見せる。 (ここでめあての下線部を提示) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">なぜウルルには呼び名が2つあるのだろうか</div> 生徒に Which do you call it, Ayers Rock or Uluru? という問いを投げかけ、自分の意見を挙げさせる。その結果を全体で共有する。 ・新出単語の確認をする。フラッシュカードを用いて新出単語の確認をする。1回目はリピート読み、2回目は英単語を見て発音させ、3回目は日→英読みをさせる。 ・本文を聞く前に T/F Question を提示し、必要な情報を聞きとるように指導する。 ・教科書を閉じた状態で会話を聞かせる。1回目は字幕なし、2回目は字幕つきで聞かせる。 ・教科書を開いて本文の内容理解に関するワークシートに取り組ませる。まずは個人でワークシートの問いについて考え、その後ペアで意見交換を行わせる。 ○本文の内容の音読活動をさせる。 ・本文の音読を行わせる。スラッシュ&リピート読み→1文リピート読み→教師と交代読み→日→英読み→1人読みをさせる。	iPad ワークシート (知・技)
4. Activity ウルルの呼び名やアナング族の気持ちについて考えたことを交流する	5	○ウルルの呼び名やアナング族の気持ちについて考えたことをペア・全体で交流させる。 ・「Why did British Explorers name it Ayers Rock?」と問いかけ、歴史的背景に関して考えさせる。	
5. Reflection	10	○最初に問いかけた「Which will you call it, Ayers Rock or Uluru? Why?」という問いかけをもう一度投げかけ、選んだ理由をペアで伝え合わせる。ペアとの交流後、ロイロノートを使って全体でも共有する。 ・Reflection sheet に本時で学んだことについて記入させる。	iPad Reflection sheet (思・判・表)
振り返り：(例) I call it Uluru to respect the Anangu's culture. / I call it Uluru because I want to respect the Anangu's culture.			